

徳島県総合計画審議会「宝の島・とくしま創造部会」会議録

I 日 時 平成26年4月23日(水) 16:30~17:15

II 会 場 県庁10階 大会議室

III 出席者

【部会委員】 14名中 10名出席

近藤宏章部会長, 真田純子副部会長, 榊野千秋委員, 分木秀樹委員,
山上敦子委員, 岩野倫子委員, 飛田久美子委員, 唐渡義伯委員,
永本能子委員, 村崎文彦委員

【県】

政策創造部長, PTメンバー ほか

IV 議 題

- 1 新たな総合計画の策定方針について
- 2 その他

《配付資料》

資料1 新たな総合計画の策定方針について
資料2(参考資料) 徳島県総合計画審議会部会設置規程

V 会議録

1 新たな総合計画の策定方針について

事務局より資料1及びポンチ絵に基づき説明があった後、意見交換が行われた。

(村崎委員)

この新たな総合計画の策定についてアンケートを県民から取る際に、高校生、大学生を対象としており、大学生についてはどれくらいの数の県内出身者がいるか気になると思いますが、この意見聴取対象者としてお父さんやお母さんをはじめとした保護者をに入れていただければと思います。

今、本県で中学から高校に入る生徒が7千人を切るという現状があり、私世代では1万人くらいいました。徳島県は本当に子育てしやすい県なのか、このメンバーの中でもお子さんやお孫さんがいる方もいらっしゃると思いますが、2050年までの長期計画を考える上で、本県が本当に子どもを育てやすい県になっているのかが最近気になっております。公立の幼稚園でも休園、閉園となっているとこ

ろが特に地方にいけば見受けられます。

結局、お父さん、お母さん、保護者の方が子どもを育てていくうえでメリットがある施策を実施し、我が子を徳島に残し、その子も徳島に居続けたいという気持ちとなってもらうことが大事ではないでしょうか。

高校生はもう既に外に目が向いている子もおり、都会に出たいという場合も多く、大学生では徳島出身の人もいるが県外出身者もおり、この他県出身者に徳島をどうしたいと聴いても、的を得た発言がない可能性もあります。そうならば、例えば全ての幼稚園の父母・保護者を対象に意見聴取する方が、2050年の人口問題を考えた場合有益なのではないでしょうか。日本全体で人口が減り、徳島県も今より大きく発展しているのかと言われても、なかなかそうとは考えにくい。

そう考えると今のお父さんお母さん世代の意見を聴取する方法が現状のアンケート方式ではちょっと少ない気がします。

実際、お父さん・お母さん世代で前向きにアンケートに答えてくれる人、意見交換会に来られる方は意識が高い方々だと思います。逆に意識が低い人たちの方が大多数であるのなら、そういった方々、お子さんがいる方々、いない方々についても広く意見聴取し、これから子育てしやすい徳島県、まずは人口を増やしていくためにはどうすれば良いのか、ということを考えていくのも良いと思います。

(近藤部会長)

たいへん貴重な御意見でした。確かにこれからどういうふう子育事情が変わっていくのか。例えば、今までなら県外に出て行く学生が多かったが、最近子どもらの人口も減ってきており、傾向として最近県内に進学したい学生が増えてきているとも聞いています。

そういったことも含め、大学生・高校生だけを対象にするのではなく、特に現在子育てをしている親からの意見聴取についても、できれば抜き出して実施する方向でお願いしたいと思います。いかがでしょう。

(事務局)

御意見ありがとうございました。当然、長期計画策定に際し、一番大事な問題としまして人口減少社会の進行があります。そういった中で子育て・少子化対策は非常に重要な視点になると考えています。

今、高校生・大学生へのアンケート内容として、2050年には時代の中心になる方々に夢を描いてもらうということで特に力をいれておりますが、当然人口減少に対する今の子育て世代をターゲットとしたアンケートなども重要な切り口だと考えますのでいろいろと手法を考えていきたいと思ひます。

(近藤部会長)

他に御意見はないでしょうか。

(永本委員)

先ほどの村崎委員の御意見についての補足と質問があります。私も同意見でして、大学生アンケートだけでなく、その次の世代へのアンケートも必要があると思います。

ただ、先ほどおっしゃられていた子育て世代だけでなく、また、小さい子どもを持つ保護者だけでなく、その狭間として新入社員などで結婚していない世代、もしくは結婚はしているが子どもがいない世代の意見も聴かないと。これから、結婚するかどうか、そして徳島県で子どもを産んで育てていくのか、結局はその方たちが次の世代を担っていく訳なので、その方々にも意見を聴く必要があると思います。

多くの新入社員を採用している企業にも協力していただいて、若年世代の社員のアンケートも取る必要があるのでは。そこに子どもがいるいない、結婚しているいない全て含まれるということでの聴取が良いと思います。そうすると結婚する前の方々の意見も拾えますので良いかと思います。

あと、策定手法として大学との協働ということが記載されており、そこに包括協定等締結する大学の協力を得る、とありますが、具体的にどういうふうに専門的知見の活用を考えているのかイメージできなかったのを教えていただければと思います。

(事務局)

最初の子育て世代との狭間の世代についてですが、ここについても人口減少に係る今後の少子化対策として重要な切り口でもあるので先ほどのアンケートと併せて手法を考えていきたいと思います。

あと、後段の大学の専門的知見でございますが、例えば一例ですが、2050年のビジョンのなかで人口減少、経済情勢、世界情勢、エネルギー問題等さまざまな観点があると思いますが、それぞれの分野において大学で個別に研究されている専門の先生に、各パート毎に切り分けて御意見をいただくことを考えております。

(近藤部会長)

よろしゅうございますか。では岩野委員お願いします。

(岩野委員)

この総計（注：総合計画）の作りについてですが、毎年いただいて仕事柄きっちり読み込んでいるつもりです。

そんな中、折に触れて耳にするのですが、徳島の総計は総花的だとか項目が多

すぎるとかの類いです。私もそれまで徳島のものしか読んでなかったのですが、以前、仕事で他県のものを見る機会があり、驚くほどもっとシンプルに大事なことを集約していたり、また、1つのことについて驚くほど緻密な計画があるなどしておりました。

なんせ今回も徳島としてこの総計をもう1回マイナーチェンジして、どこが変わったんですか、という程度で策定していくつもりでしょうか。

いわゆるフォームというか考え方というか組成というか、何百項目もあって、そのうちA評価が何百あって何十パーセントで、というのを、スタートするときも年1回締めた後もそうですが、世論があったり意見があったりした時、今のままの反映のさせ方でいくのでしょうか。そろそろこの組成についても大変革を遂げる時期になっているのではないのでしょうか。

今のままこの計画ベースで置いておき、ちょっとずつみんなの意見を入れてマイナーチェンジして改定をいついつしました、程度ではたいした変更もなく、色刷りが今年は青、来年は緑になったぐらいの改定で終わりますが、今回思い切った総計の組成のあり方を見直すため、この県庁内プロジェクトチームが組まれたのだと私は勝手に希望しているのですが、そののころを教えてくださいませんか。

それと、設置規程の（分掌）第4条、「いけるよ！徳島・行動計画」の部分に線が引かれており「徳島県の総合計画」と改まっているのですが、何がいけるのか、私は以前から疑問に思っていたそのキャッチコピーを捨てて、名は体を表すということで、大変革を遂げるような総計に、今までの徳島にはない、何が大事か分かりやすく総花的ではなく中身があって、他県の北海道から沖縄までのものをびっちり見て変えていくのかな、ということまで考えているのか、教えてくださいませんか。

（近藤部会長）

たいへん貴重な御意見ありがとうございました。私もかねがねそういう話はしております。ほとんどC評価に近いのものがどんどん並んでいるのよりかは、逆に本当に重要なことをやっていくのが、やはりこの計画の骨子だと思います。先般も県の方が打ち合わせに来ていただいた時に大幅にチェンジをしていく方向で考えているようでありました。

このあたりを県から御回答いただけますか。

（事務局）

現在の「いけるよ！徳島・行動計画」は今年度までの計画となっております。

当然新しい計画は委員皆様にこれから御審議していただくものであり、この名称を前提としているものではなく一般的な名称「徳島県の総合計画」に改めさせていただきます。これに合わせ、計画の組み立て・構成も含め、現状の項目数、施策数や数値目標が700、800となっていることが新計画においても適当で

あるか、というところから考えてまいりたいと思っております。

ただ、総合計画ということでどうしても総花的というかオールジャンルにまたがる計画として施策・指標を盛り込む必要もあり、これらをどこまで重点化できるのかなど、今後皆様方からも御意見をいただきながら考えたいと思っております。

基本的なスタンスとしては今の「いけるよ！徳島・行動計画」をベースにするつもりはなく、計画の構成・指標のあり方等を含めて見直しを図り、皆様にお示ししたいと考えております。

(近藤部会長)

よろしゅうございますか。

(岩野委員)

期待しております。

(近藤部会長)

それでは、真田委員どうぞ。

(真田副部会長)

私も岩野委員の意見に全面的に賛同します。

現在の総合計画を見たときに幾つか大きな目標があり、にぎわい、環境、福祉などその時点で既にどの部局が担当するのかが決まっているようで、本来は一つの大きな目標に向かって県が動いていくはずでしょうが、最初からバラバラに動いてどうやって県として一つのものにしていくのか、摺り合わされる仕組みになっていないのがいつも気になります。

そのため、今回は県としてどういう方向を目指していくのか、ひとつ大きく抽象的でなく具体的に作ったうえで、必要があれば県の組織改編をするくらいの気持ちでやっていただきたいと思えます。

せっかくプロジェクトチームを作るのであれば自分の分担だけを各部署に持ち帰って各々が作る感覚ではなく、自分がどの部署出身で、という考えではなく、県がどうするのか、それに応じて必要な組織を作るくらいの気持ちでやっていただきたいと思っております。

(近藤部会長)

今日は結構前向きな意見が出ており、さきほどから唐渡委員がうんうんと頷いているようで。唐渡委員、何かありましたらどうぞ。

(唐渡委員)

岩野委員の言うとおりであります。全く新しいてこ入れをしていただいで、縦割りでないワンストップな形でやっていただければ、スムーズになるのかなと思ひました。

それと、もっと若い意見を取り入れるということでSNSを活用していただいで多分広く周知ができると思ひますが、その後とりまとめるのは非常に大変だと思ひます。いろいろな意見も集まってくると思ひますが、それらをきちんと見極めて整理していただければと思ひます。

(近藤部会長)

ありがとうございます。それでは飛田委員どうですか。

(飛田委員)

フェイスブックを活用されて5月1日からアンケートを取られるようですが、SNS関係は非常にメンテナンスが難しいと思ひます。

その際、ただアンケートを取るだけでなく、ある程度の仮説を立てていただいで、アンケートはあくまで裏付けになるようなもって行き方で使わないと。何でもいいから意見を寄せてください、では実際なかなか意見が集まりにくいと思ひます。ほぼ毎日担当の方が何らかの情報配信をしていって、それに対するバックがあった場合にフェイスブックではない別の県のホームページとリンクさせて情報公開していくなど、複数の出口が必要になってくると思ひます。

これは専門に広報等されている人がいたとしても現在は非常に難しくなってきたと思われ、たいへんな御苦勞がこれから予想されるかと思ひます。ですから、このあたりを少しでもスムーズにするためにも、岩野委員が言われたように総花的ではなく、もう少し緻密に計画を立てて、これに関してはいつまでに何人分のアンケートをどういう形で取り、いつまでにどういう形で見えるような事項に移すのか、見えるような形で広報していくのかなど、もう少し具体的なスケジュールとともに実行しないと、なかなか意見反映というところまでもいかないのかなと思ひます。

ただ、大きく変わるというのであれば、現在ここにお集まりの方々もこれからは徳島で生活していく訳ですので注目しているとともに期待も持てるかと思ひておりますのでがんばってください。

(近藤部会長)

特にSNSの件でお話がありましたが、県側としてはどういう覚悟でやるのか、別の言い方をしますと、SNSは下手に手を染めると俗に言う炎上したりもしますので。

(事務局)

フェイスブックは若い担当職員中心でやっていきたいと思っており、まだまだ課題がありこれから苦労が多いことも想像できます。

ただ現在、十分な認識ができていない面もあり、手探り状態でもありますので、今後委員の皆様及び特に若者クリエイト部会の中でも十分議論をして効果的な活用方法を考えて、単に聴きっぱなしではない上手な運用を図っていきたいと思っておりますので、またアドバイスをよろしく申し上げます。

(近藤部会長)

それでは、あとお一人どなたか御意見どうでしょうか。それでは榊野委員どうぞ。

(榊野委員)

話の続きになりますが、去年、知事が那賀町に「わくわくトーク」で来ていただいた際に、若い人の話を聴いていただいたのですが、若い人もその際にはいろいろな意見を言う訳ですがそういう場だけで終わるのではなく、これらの意見を吸い上げる方策をいろいろ考えていただけたらと思います。

(近藤部会長)

他にどうですか。

(永本委員)

各市町村との協働という視点を取り入れていただきたいというお願いです。

総計を策定してから実行する際にどういうふうに各市町村と協働を予定しているのか分からないのですが、県が掌握している行政事務の範囲内で、今のような大きくシンプルな方針を立てて、それにしたがって各市町村にこれで必要な範囲についてお願いする、という方針で良い部分も確かにあると思います。

しかし、既に若者を徳島県で根付かせる計画とか、各市町村で取り組みをされている例も多いと思います。ですので、それらの先進取組例をうまく生かして県がバックアップするやり方のほうが、実現するのに時間が短縮するとか効率が良くなる場合もあると思います。

あまり抽象的で大上段にかまえて、実現するのに時間がかかったり多大な労力をかけたりするのはどうなのでしょう。

まずは、市町村の先進事業でこの総計に見合った取り組みがあるのであれば、そういう取り組みを掌握してからそれをバックアップするやり方で進めていくのも一考されればと思います。

(近藤部会長)

今の御意見についてどうでしょう。

(事務局)

市町村との連携につきましては今の段階では具体的な手法は考えてはおりませんが、重要な視点だと思えます。基本的には県の施策を盛り込むのが総合計画ではありますが、市町村の取り組みについても効果的に活かしたいと思えます。

あと、榊野委員からいただいた御意見で、ここにあるアンケート以外でも今年度も「わくわくトーク」を予定していますので10年後、2050年の未来などについても、その場で御意見をいただくとともに、あらゆる機会・手段を通じて総合計画策定に向け幅広く御意見をいただきたいと考えております。

(近藤部会長)

それでは岩野委員、どうぞ。

(岩野委員)

いま四国経済産業局が実施している四国地方産業競争力協議会の議事に書かれていたのですが、その中で「四国は一つ」なのか、「四国は一つ一つ」なのかという議論があって、徳島県ならでは、の取り組みも良いのですが、少なくとも四国単位では進んでいかないと少子高齢化・縮む経済はクリアできないのかな、と感じています。

やはり四国全体の流れに乗っていく。例えば、PR、観光、輸出戦略であるとかは、やはり四国は一つの流れに乗らないとだめだと思えます。

私なりの議事録解釈では、徳島一県だけがこの流れに乗り遅れている感があります。リーダーを一つもしていないし、観光であれ、何であれ、とにかく四国他県に遅れを取らないというのは最低条件だと思えます。

やはり、四国は一つ一つではなく、四国は一つとして、徳島は協力的でないという見え方や周回遅れしている分野を潰していくのは最低条件だと思えます。

そのためには、広く視野を広げて北海道から沖縄まできっちり見たうえで自分の立ち位置を大事にして、四国ではどうなのか、西日本ではどうなのか、日本ではどうなのかということを考えて計画を作っただけだと良いのかな、と思いました。

(近藤部会長)

とりたてて、この件に関しましてはお返事はいいりませんね。お願いベースということで。

私も四国地方産業競争力協議会には出席しておりますが、やはり四国が一体になりながら取り組める事業とは最終的には何なのかと。

よくよく考えてみると、四国4県と静岡を比較すると、はるかにあらゆることで静岡1県のキャパの方が大きいんですね。ということは、四国4県がそれぞれでやることと4県が協働してやることを分けてしっかり考えていかないといけない。

先ほどの競争力協議会は今まで3回開催をしております、先日、高知でとりまとめをしたのですが、意見としてはなかなか四国を一つにして何かやろうというところまでまとまりきらないように思いました。

ただ、観光など例えば大きな自転車の競技会を四国でやろう、四国新幹線などは四国4県で取り組むべきこともあるかと思われまます。総じて今の段階ではお互い腹の探り合いのような実情です。

結局、1県1県がどれだけがんばるのかにかかっており、その際、1県では足りない所があるので、お互い協働しようよ、という話になってこない。四国4県でこれやろうよという施策が各県に降りていくやり方ではなかなかまとまらないと思っております。

(岩野委員)

その会議で四国で一緒にやっていくものとしては、例えば観光分野であれば自転車ツーリズムと四国遍路1200年に決まったんですが、あれも結局徳島が、もっとリーダーとしてやっていける分野をどんどん増やしていかないとだめですよ。

結局四国で決まったので付き合わされてやる、やらされ感だけで実施するのはもったいないので。製造業でも何でも、もっと戦略的に徳島が中心になる分野を作ってやっていくとか、どうせやるのなら、自分からやっていくのでないと。

そうしないと力のある自信のある県だけが、得意な分野だけをグイグイやるために他県も付き合えとなるだけで、それでは徳島としても残念だと思います。

(近藤部会長)

貴重な御意見ありがとうございました。他にどうしてもこれだけは言っておきたいという方がおられましたら。では村崎委員。

(村崎委員)

せっかくアンケートをするのであれば、徳島のことを一番知っており若い世代から年配の方までいらっしゃるの県庁ですよ。その方々の御家族も含めて全員のアンケートを取れば相当な量になりますよ。全て取れるかどうか分かりませんが。県庁の方々がやらないアンケートを県民がやるのか、と言うとやらないと思います。

一回県庁の方々を対象に同じようなアンケートを取ってみるといのはどうでしょう。これからの徳島県はどう向かうべきなのかというのを一般県民に問うのと併せて、県庁の方々も県民である訳ですし、それによって一つの方向性を示す

ことができると思います。無理だとか実現することが難しいなど、県庁職員だからこそ分かることもあるかもしれません。県庁は大きな組織ですし、もちろん市役所とか他の役所もありますが。

県庁職員による県庁職員対象のアンケートですと、出来レースと見られるかもしれませんが、県民がやるのと同時に徳島県を良く知っている県庁の方々とその御家族からアンケートをとるのも大事であり面白いのかなとも思いました。

(近藤部会長)

たいへん際どい御質問だったかのように思いますが、どうでしょう。

(事務局)

4年前の策定時の時も知事と新規採用の職員が意見交換をしたことがあり、先ほどの話で出てきた子育て世代とか新入社員の方々、という切り口を県庁でも落とし込んだという例でございます。

全職員を対象にするのか、切り口を抜き出すのか、いろいろとやり方はあると思いますので今提案していただいた案も一つの方法として検討したいと思います。

2 事務局説明

本日の会議録でございますが公表に当たりましては、事務局でとりまとめた上、近藤部会長に御確認いただき、公開したいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

(以上)